

江の島丸、元司厨長二人が瑞宝単光章を叙勲されました。

江の島丸航海士の成瀬です。

令和3年11月3日（文化の日）元乗組員の谷場さんと物袋さんが船舶職としては初めて瑞宝単光章を叙勲されました。

この事をご本人のみならず、我々船舶職員に取っても大変光栄であり、名誉な事で現職員始めOBの方々もたいへん喜んでいきます。

お二方は共に司厨長の職務を担当していらっしゃいましたので、船での賄業務についてお話しします。

江の島丸14名の食事を作る賄室は狭く、夏場は冷房も効かず調理による熱で室内の温度はとて高くなり一年中暑いです。

フライパンなどは業務用の大きい物を使用していましたが、14人前の焼きそばや焼き飯などを作る際には数回に分けて作る必要があり手間暇がとてかかっていました。

また味噌汁などの汁物を作る時には時化により鍋から汁がこぼれるなどの事もありました。賄は大変な仕事なのです。

この様な職場で長年にわたり苦労を重ね、乗組員に美味しいものを食べさせたいという強い思いを我々は日々感じていましたので、この度お二方の受勲はとて嬉しい事でした。

谷場さんは昭和49年1月付けで当時の水産試験場所属の調査船「相模丸」に甲板員として乗船、昭和53年11月に司厨員に職務替えとなり、昭和63年4月に司厨長に昇格しました。

調査船「さがみ」を乗り継ぎ、平成13年4月に江の島丸の司厨長として乗船、平成28年3月退職後も再任用職員として令和3年3月まで江の島丸の司厨長として私たちのお腹を満たす食事を提供して下さいました。



谷場 年氏

物袋さんは昭和 49 年 4 月付けで、やはり当時の水産試験場所属の調査船「相模丸」に甲板員として乗船、昭和 62 年 4 月に江の島丸に甲板員として異動するも、昭和 63 年 4 月に司厨長となり、平成 13 年 4 月までの 13 年間にわたり司厨長として賄業務を担当されておられました。

その後「さがみ」の廃船に伴い谷場さんにバトンタッチして甲板部、機関部と多岐にわたる職務を歴任し、平成 28 年 3 月退職後も再任用職員として活躍され、令和 2 年 3 月に退職されました。

手先の器用さを買われて試験操業、海洋観測調査機器の取扱いにも従事されていましたが、長年の経験を活かし後輩たちの指導にも貢献して頂きました。

船長曰く、人事異動や退職者により人手不足の中、快く職務変更に応じて頂いた事は船の運航上、大変助かったとのこと。



物袋 清隆氏

谷場さんと物袋さんをお手本として我々職員一同、神奈川県水産業の振興のために尽力していきたいと思えます。

健康に気を付けてお過ごし頂くと共に、益々のご活躍を願っております。